

本時のねらい

- ・話すことができる言葉を増やして、相手に言葉で自分の思いを伝えることができる。
- ・ひらがなの形を覚えて、ひらがなを一人で書くことができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・言葉の練習カードをスライドで作成することで、簡単に言葉のカードを増やすことができる。また、増やしたカードを共有することで、児童がいつでも、どこでも練習することができる。
- ・共有ノートを使うことで、リアルタイムでお手本が書かれるので、注目して見る力、集中して取り組む力をつけることができる。
- ・タブレット端末上の画面で様々な操作をすることを通して、目と手の協応性を育むことができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・Google スライド

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5 分)	○学習の見通しを持つ。 ・本時に行う活動とその流れを知る。 めあて:ひらがなをおぼえて、ことばをかいいたりはなしたりしよう	
展開 (35 分)	○言葉のれんしゅうをする。 ・ひらがなを一つずつ発音する。 ・短い文章を音読する。 ・「これなあに スライド」を使って、ものの名前をまとめて言う練習をする。【写真 1】 ○ひらがなの形を覚える。 ・ロイロノートを使って、絵に合うように、ひらがなのカードを並べ変える。【写真 2】 ○ひらがなを書く練習をする。 ・ロイロノートの共有ノート機能を使って、教員が書いた手本をなぞる。【写真 3】	・自分でタブレット端末を操作し、自分のタイミングで次へうつる。 ・ひらがなを口に出しながら操作することで、正しい文字の順番や位置を意識できるようにする。 ・画面に集中し、教員が手本に書いた字をなぞれるようにする。
まとめ (5 分)	○本時の活動のふりかえりを行う。 ・本時でできたこと、できなかったことをふりかえる。	

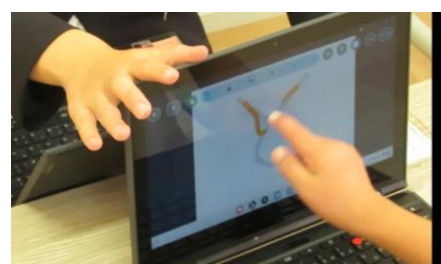
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】イラストやその名前を見て、声に出す練習をするようす



【写真 2】ひらがなの文字を並べ替えるようす



【写真 3】教員の手本を、共有ノートを用いてなぞるようす

児童生徒の反応や変容

- ・画面上にひらがなが大きく表示され、自分の意志で動かしたり次のひらがなへ進めたりできるので、児童がすすんで取り組みやすい。
- ・ひらがなの文字や入力するスペースが大きいので、ひらがなを並べ替えたり書いたりしやすく、活動しやすいようであった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・教員の端末と児童の端末で画面を共有しているため、指導者の書いた手本を同時になぞって書くことができた。児童が書いている字が瞬時に教員端末に映し出されるので、目の前でほめることができた。